

大学卒業後1~3年目の女子 それぞれの選択

好きな仕事に打ち込む。
大学院で専門性を磨く。
結婚を機に転職する。
育児の傍ら再就職を目指す。
様々な選択の向こうに、
次の未来の夢が見えてくる。

幼い頃から動物が大好き。高校入学当初から、農学や動物について学びたいと思っていて、大学では野生動物学の研究室に所属していました。研究室では、半数は大学院、私を含め残りの半数が就職を希望。進学も就職も、選ぶ基準は人それぞれで、男女の差はありません。就活は、先生の勧めでまず一般企業から受け始めました。周りが

決まっていくなかなか内定をとれず、不安と焦りで食事や喉を通らないほどでした。口には出さなかったものの、母には心の内を気付かれています。夏休みに入って乗馬クラブへ実習に行き、自分はデスクワークより、動物と触れ合う仕事がしたいのだと実感。「ここに就職したい！」気持ちをはっきりと決まり、願いが叶って採用されました。馬たちのためなら早起きも苦になりませんが、接客の仕事はなかなか難しく、先輩たちの確かな乗馬指導や、体験乗馬をお客様に楽しんでいたための配慮などを学ぶ日々です。また、スタッフになって初めて、場の雰囲気作りや、清潔さを保つ気配りなど、目に見えない部分の努力があることを知りました。

本当に「やりたい仕事」に出会えた。
四六時中、馬のことを考える
しあわせな日々。

A.Iさん
23歳
未婚
御殿場市(静岡市出身)
会社員



体力勝負で危険も伴う仕事ですが、できればずっと続けたいです。結婚は30歳くらいで。先輩で、結婚出産で数年休んだ後に職場に戻ってきた方がいます。その方の生き方や、仕事に対する姿勢に憧れており、私も、そんな風にできたらいいなと思っています。

杉本雅美さん
Sugimoto Masami
24歳
未婚
京都市(島田市出身)
大学院2年



大学時代ドイツに留学した経験を活かし、志望の大学院で20世紀ドイツ精神史を学んでいます。勉強は面白く、優秀な仲間たちから刺激を得て充実した日々を過ごしています。しかし将来については、まだ目標が定まっています。博士課程を経て専門分野を極めたい気持ちがありますが、大学以外の世界を知らないまま歳を重ねるのには抵抗があります。留学も進学も、目標を目指してまっしぐらに突き進めばよかったのですが、この先は簡単に目標が定められない。専門分野を活かした就職は難しいし、どこに向かっ

専門知識が就職に直結しないもどかしさ。
じっくり考えて、ベストな答えを見つけたい。

てどう頑張ればいいのか？という焦りがあります。

大学時代の友人たちは社会人2年目を迎え、既に転職している人も少なくありません。大学時代は就職さえできればいいと思っていたものの、いざ働き始めると、この仕事で自分に合っているのか、この働き方でのいいのかと、新たな悩みが生じるようです。彼女たちと話すとき、学生と社会人では悩みの種類が違うことを実感します。身近に、既婚で子育てしながら講師を務めている女性の先輩がいますが、ご本人は「大変だよ」と言っています。私から見たら憧れる生き方なのですが、今までは特に男女差を意識せず生きてきました。が、今後は仕事と共に結婚や育児が視野に入る歳になり、男女の違いを意識せざるを得ないのかなあと。

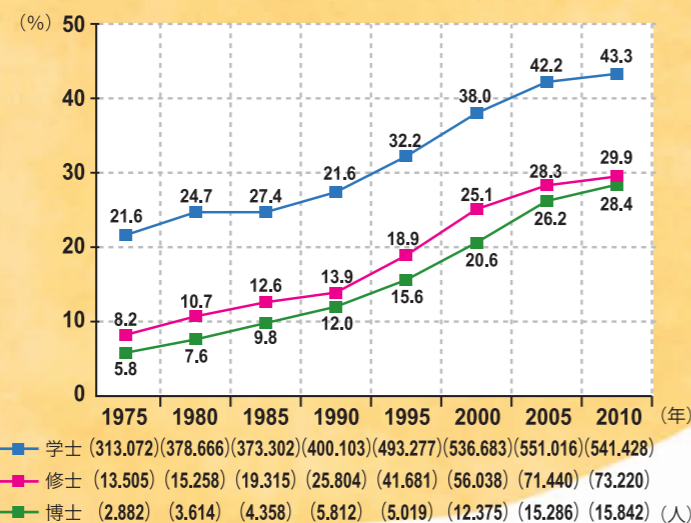
悩みは尽きませんが、とことん悩み抜いて、自分が納得できる答えを出したいです。

大学院卒女子は 30年間で3倍に増加!

35年間で、女子大学生の比率は約2割から4割に増加。また大学院生の比率は1割弱から3割に増加しており、女性の高学歴化が進んでいる様子が見取れます。

※「学部卒業者と大学院修了者の女性比率の推移」
2012年 日本の大学教員の女性比率に関する分析
文部科学省科学技術政策研究所 より作成

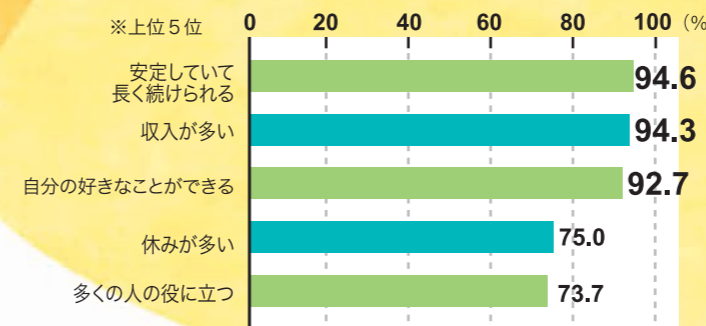
学部卒業者と大学院修了者の女性比率の推移



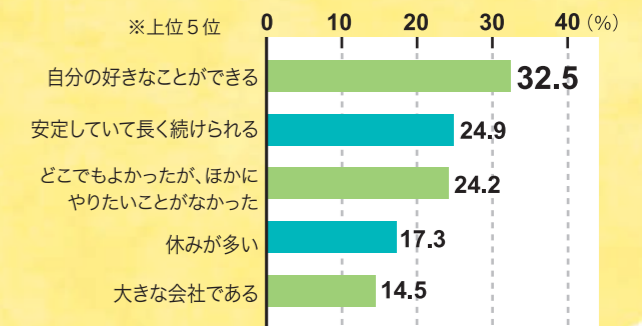
好きな仕事を望む人は9割、実際に就いた人は3割!

仕事を選ぶ理由、仕事に就いた理由とも、「好きなことができる」、「安定して続けられる」が上位を占めています。しかし仕事に就いた理由は「どこでもよかったが…」という回答も約25%あり、就職戦線の厳しい現実がうかがえます。

仕事を選ぶ理由として重視していること



現在の職業に就いた理由



※ともに内閣府「平成24年版 子ども・若者白書」より作成
平成23年12月~平成24年1月に全国の15歳から29歳までの男女3,000名(男性1,500名、女性1,500名)を対象に調査

大学卒業後1～3年目の女子 それぞれの選択

安田恵理さん

Yasuda Eri
23歳
既婚
函南町(新潟県新発田市出身)
専業主婦



大学4年生、就活を始めた矢先に妊娠が発覚。同大学の先輩である彼と結婚し、翌年1月に長男を出産しました。経済的理由などで、結婚と同時に義母と同居することになり、それに伴って彼も転職。今は生活も安定しましたが、最初はかなり不安でした。

夫は保育士で家事も育児も得意です。私は就職もせず育児に専念しているので、傍からは「楽をしている」と思われているのかもしれない。いずれは保育士として働くのが夢です。若くして母にな

こんなに早くママになるとは！
家族に支えられて毎日頑張っています。

り、子どもを預かる側と預ける側、両方の立場を経験していることは保育の仕事に役立つのではないかと思います。反面、まずは子育てを第一に考え、無理のない範囲でできる仕事を探したい...という気持ちも芽生えています。子どもを預かってくれる場所がなければ、仕事をみつけることもままならない現実を目の当たりにして、保育所の空き状態も気になるところです。

新潟の両親は、私が静岡の大学に進むことに反対でした。女の子は地元がいい、と。妊娠が分かっていた時も「結婚してから子どもを産むのが当たり前」と大反対されたまま、結婚してしまいました。今では孫をとて可愛がってくれますが、自分が親になって、両親に寂しい想いをさせてしまったなあと思つてしまいます。後輩世代の人たちも、若いうちにいろんなことにチャレンジしてほしいですね。

新たな夢に向かって走り出したところ。
結婚生活もライフワークも
楽しめたらいいな。

柳生結香さん

Yagyu Yuka
25歳
既婚
三島市(藤枝市出身)



この春までブライダル業界で正社員として働いていました。とても充実した毎日。と同時に責任の重さに押しつぶされそうになったこともあります。寝ても覚めても仕事のことが頭から離れなくて...。特に1年目は、体力的にも大変で「こんな生活がずっと続けられるのか？」とよく思っていましたね。2年目には仕事にも慣れ、やりがいも感じられるようになりました。

そんな私ですが結婚退職しました。自分が寿退社するなんて、考えてもいなかったです(笑)。彼は遠距離恋愛。働き続けるために別居婚も考えるなど、悩みに悩みました。もう少し職場が近かったら辞めなかつたと思うけれど、こればかりは仕方ないと自分を納得させて退社にふみきました。

学生時代は「制度さえ整えば、男女共同参画は可能」と考えていました。でも社会人になって、そう簡単なものではないと実感。育児制度や保育園などの制度が整っても、実際には会社での立場や、妊娠・出産への理想などが複雑に絡んで、「男性も女性も同じように働く」というのは現実問題やはり難しいのではないかと、思うようになりました。それぞれの特性を上手に生かして、バランスを取りながら人生を送るのがいいのではないのでしょうか。

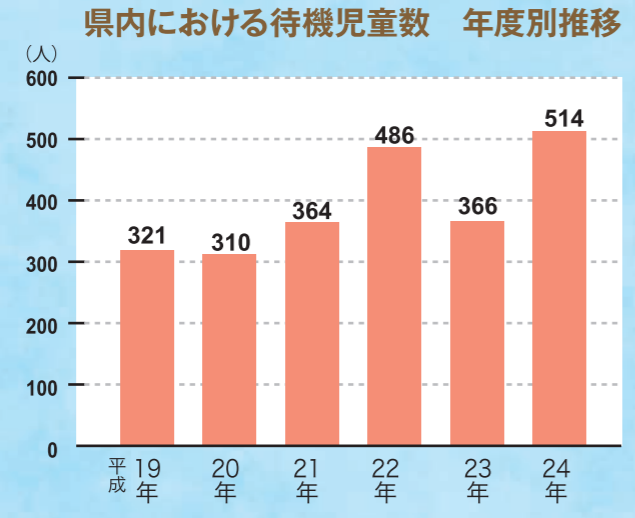
現在、私には夢があります。それは学生時代にあこがれたアナウンサーになること。いまは事務所に所属したばかりですが、経験をどんどん積んでずっと仕事を続けていきたいと思っています。

そんな私ですが結婚退職しました。自分が寿退社するなんて、考えてもいなかったです(笑)。彼は遠距離恋愛。働き続けるために別居婚も考えるなど、悩みに悩みました。もう少し職場が近かったら辞めなかつたと思うけれど、こればかりは仕方ないと自分を納得させて退社にふみきました。

学生時代は「制度さえ整えば、男女共同参画は可能」と考えていました。でも社会人になって、そう簡単なものではないと実感。育児制度や保育園などの制度が整っても、実際には会社での立場や、妊娠・出産への理想などが複雑に絡んで、「男性も女性も同じように働く」というのは現実問題やはり難しいのではないかと、思うようになりました。それぞれの特性を上手に生かして、バランスを取りながら人生を送るのがいいのではないのでしょうか。

現在、私には夢があります。それは学生時代にあこがれたアナウンサーになること。いまは事務所に所属したばかりですが、経験をどんどん積んでずっと仕事を続けていきたいと思っています。

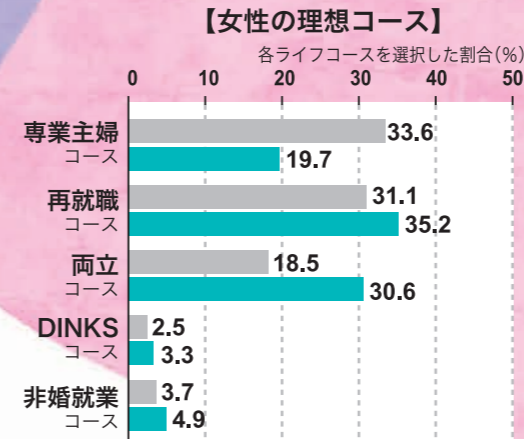
待機児童数は
過去数年間で
最高の514人!



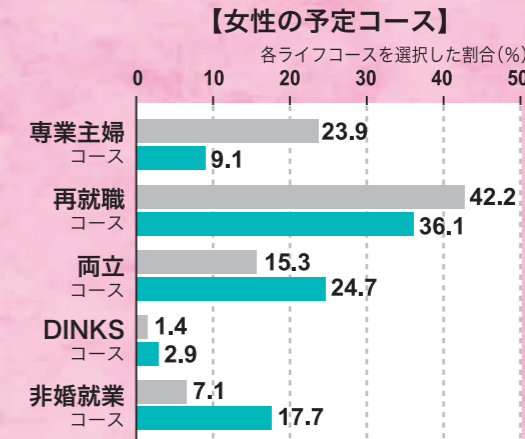
平成24年度は、景気低迷による保育需要の増加、低年齢児の需要増加などの理由で、特に都市部を中心に待機児童が急増しています。県では施設整備による定員増、保育所以外の保育サービスの提供、待機児童増加地域へのヒアリング調査などの対応を行っています。

※静岡県HPより作成

女性のライフコースの理想と現実



専業主婦が減り、再就職、両立派が主流に



DINKS: 共働きで子どもを持たない夫婦のこと。Double Income No Kids

2010年の調査で「専業主婦の予定」とした女性が10%を切りました。代わりに目立つのが、仕事を辞めず家庭と両立するスタイル。夫ひとりの収入だけでは家計が回らない、または将来が心配という世相を反映しています。

※国立社会保障・人口問題研究所 2010年 第14回出生動向調査「女性の理想・予定のライフコース」より作成

Books & Cinemas



静岡大学 人文社会科学部
准教授
森本隆子さん

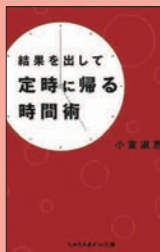
NANA - ナナー
矢沢あい 著
集英社

大崎ナナと小松奈々。対照的な性格を持った2人のNANAが、助け合い、傷つけあいながら、それぞれの道を歩いてゆく。

バンドと最愛の男に賭けるナナの華やかで激しい生き方も魅力的だが、同性の女性読者たちから、嫌われているようで、案外、ひそかな関心を集め続けているのが、ささやかな幸福を求めれば破れ、男遍歴を繰り返している奈々である。

手に入れたいモノは目の前を通過してゆき、手に入れたと思った人には、自分よりもっと大切な人がある…。これといった才能もなく、失恋や不本意の前にたずむしかない奈々は、失ったことに対する傷つきから目を逸らさず、それを受け入れながら、不十分な自分に可能な限りでの、誠実でベストな選択を続けてゆく。傷ついても、損なわれ続けても、人は生きねばならず、また、生き得るものであることを、奈々は、ナナと私たちに教えてくれる。

羅針盤を持つことのできない混沌の時代を手探りで生きる若者たちに、<2人のNANA>を贈りたい。



静岡県立大学
学生部
山本六三さん

**結果を出して
定時に帰る時間術**
小室淑恵 著
sasaeru文庫

社会人1、2年生であればこのタイトルに飛びつきたくなるだろう。でも、時間を増やす方法はない。限られた時間をどう使うか、ワークとライフの関係をどう作るかが書かれている。

「見える化」や「会議でうなづくこと」は、やっているつもりでも文字にして考えてやりだすと効率上がる。それに気持ちよくできるのがいい。「仕事がかどらないのは仕事ばかりしているから」と「空いている時間は自分が貢献できる場所に出かけていく」が響く。仕事の範囲の少し外にアイデアや人脈が転がっているものだし、学生の勉強会に参加して、情報を与えたつもりでも自分の仕事へのヒントに気付くことが多い。

この本の最後で著者は、今すぐ人に会う約束をすることを勧めている。私は、さらに、その人の役に立つ話題と自分が考える「こうなったらいいな」を1つずつ持参することを勧める。それが自分をわくわくさせ、背中を押し、未来の扉を開くからである。



静岡大学 人文社会科学部
客員教授
平野雅彦さん

向田邦子の恋文
向田和子 著
新潮文庫

恋をしていますか。恋と愛の違いは何ですか。その恋愛はあなたをどんなふうに変えましたか。10代終わりの恋愛と、20代はじめのそれとはいったい何が違うのでしょうか。

愛は多くの場合が不条理です。そうして切ないもの。だからこそ古の人々は和歌を詠んだのです。ハッピーな状況では歌は生まれません。和歌は、それを如実に伝えています。

わたしは向田邦子を読むときに、いつも和歌に似た感覚を覚えます。無駄のない凛とした言葉の差し出し方は、それでいて艶で粹です。向田邦子は「貫く人」でした。祈るように書くことで、「その愛」を自らの未来へと投げかけていた。そうして愛を買った。自分の心に真っ直ぐに、自分自身を信じて愛に生きた。

愛の語源には「哀」が潜んでいることを忘れてはいけません。向田邦子は、「残すつもりでなかった手紙の束」を通して、それを読み手に教えてくれます。



(株)サルナートホール
静岡シネ・ギャラリー
副支配人 川口 澄生さん

イラン式料理本
監督 モハマド・シルワーニ
配給: アニープラネット
◆静岡シネ・ギャラリーにて
2012年11/10(土)から11/23(金)まで公開

新婚夫婦からベテラン主婦の台所まで、様々な世代のイラン人女性7人が披露する献立や伝統的な家庭料理を撮影した本作は、2011年山形国際ドキュメンタリー映画祭市民賞・コミュニティシネマ賞W受賞に輝いたドキュメンタリー。そこから浮かび上がるのは、男と女、嫁姑、家族というドラマ、そして、イランの「昔と今」。

登場する女性たち誰もが「料理は時間と手間が掛かる」とこぼす一方で、「料理は女性の義務だ」と無関心な男が登場する。現代を生きる日本女性はきっと困惑するだろう。特に、双子を育てながら大学に通う監督の妹(おそらく22歳前後)が5時間(!)も掛けて料理する様子は、本誌読者にはどのように映るのか。一方、9歳で嫁いで今や100歳になる老婆が、今まさに長い時間を掛けて料理する女性たちの「未来」を暗示するように登場する。

エンド・クレジットでは、奇才と呼ばれる監督ならではの「ビターなデザート」も添えられた逸品。もうお腹を満たすだけの食事はやめよう。そして、ユーモアとペーソスの効いた映画を味わおう。

母娘 (54歳・団体職員)より
(23歳・大学院生)へ

保育士になりたかった娘に教職を勧めたのは私。教採に落ち先生になる自信がないと言った時、娘の人生を狂わせたのかと悩んだ。でも、大学院に進学してグングン成長したあなたは、院1年で教採に合格!自信が芽生え、周囲への気配りができる女性になったね。教職を続けるのは厳しい時代だけど、子ども達の未来を拓くために、自分らしく遅く生きぬいて欲しい。サポートするよ!

母娘 (52歳・NPO職員)より
(23歳・大学生)へ

自分の夢が見つかったと嬉しそうに話すあなたに、涙が出そうになりました。小さな会社に押しかけて就職したいと直談判したと聞き、本当にびっくり。そう、やりたいことはやった方がいい。どんなに困難な道であろうと、自分で決めたら、頑張るから。働きながら、学べるんだよと笑顔で語るあなたは華やかなOLにはなり損ねたけれど、20年後、きっと誰よりも輝いているでしょう。私はずっとあなたの一番のファンです。

母娘 (49歳・パート)より
(23歳・会社員)へ

不機嫌なあなたへ
大学3年の冬、いよいよ就活。期待と不安が入り混じっていたあなた。4年の春、沢山のお祈りメールに心が折れそうになっていたあなた。今、社会人になって、現実の厳しさが身にしみているあなた。でも、悩み葛藤しながらも、周りの人たちへの感謝の気持ちや、仕事での小さな達成感を口にする姿を見て、その成長がまぶしく、嬉しく感じられます。
少しユニークなあなたを「ガンバレ!」とも「頑張るな」とも思いながら、見守っている私です。

母娘 (51歳・NPO職員)より
(21歳・大学生)へ

就活のシーズンだねえ。今、若者の雇用環境は厳しくて、まだまだ女性差別慣行が根強く残る社会だけど、自分を活かす道はどこかにあると思う。あなたは私に似て不器用なところがあるけど、私よりも深い考えを持って行動できる「いいヤツ」だから、のびのびとそのまま進めばいいと思うよ。私が子育ての目標にしていた「幸せに生きてゆく力を持った人」に確実に近づいているから、大丈夫!お互いに、自分も他人も幸せにできる人になりたいね。

母から娘へ
ささやかなエールを送ります。

20代女子の母親の多くは1950〜60年代生まれ。高度経済成長期に進学、就職、結婚を経験した世代です。自分とは全く異なる時代を生きた娘たちを、母親たちはどんなまなざしで見つめているのでしょうか。

母娘 (54歳・自営業)より
(28歳・会社員)へ

帰省のたびに「同級生の〇〇ちゃんが結婚した、子どもを産んだ」という報告を聞き、今の20代は仕事も収入も不安定と言われている中で、それぞれの生活基盤をちゃんと固めているんだなあ、頼もしく感じています。仕事も結婚も選ぶのは自分自身。どんな時も、自分の置かれた状況を他人のせいになさなければ、佳き人生が過ごせると思います。いつの日かあなたに女の子が生まれて3世代のガールズトークができれば・・・なんて妄想も(笑)。

母娘 (58歳・会社員)より
(23歳・大学生)へ

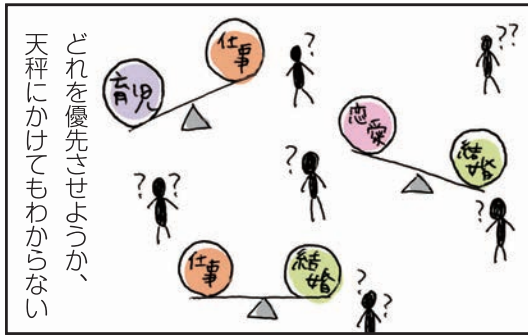
なんだ、まだ子どもだかと思うときには、私も23歳の頃はそんなもんだったと思いたく。以前のように反論されず、いなされないと、いつのまにか大人になったんだと思う。あなたたちが旅立つ時代は厳しい。向かい風に向かって一步一步、着実に歩を重ねていくしかない。でも、いつか踊り場に出て視界が開けるときがきっとくる。その日を想って、技を磨き、力を蓄え、周囲への想像力を養っていくしかない。疲れたらいつでも帰っておいで。

母娘 (53歳・パート)より
(24歳・会社員)へ

憧れの仕事に就いて良かったと思う反面、深夜まで残業続きと聞くと、一人暮らしのあなたの身が心配になります。でも「大変なら地元に戻っておいで」とお父さんが言った時、「いつまでも両親を頼るわけにはいかないし、地元で希望の就職先があるとは限らない。簡単に帰ってくれば・・・なんて言わないで」と反論されて、自分たちの甘さに気づきました。この先、結婚や育児で転機があると思うけれど、「たくましく生きて」と願うばかりです。

天秤より手玉？

編集員 なつきち



61号の感想をお寄せください

- ◆QRコードから
 - ◆E-mail kouryuukaigi@ka.tnc.ne.jp
 - ◆FAX 054-251-5085
- いずれかの方法でお願いします。



編集後記



写真前列左から
増淵礼子
鈴木亜希
後列左から
平尾夏生
梶山雄紀
利根川初美
市川美弥子

●現役大学4年生として、座談会を一番楽しませていただきました。一言一言かみくだいて、わたしたち世代のを感じてほしいと思います。誰に対しても言えることですが、わたしたちは個人であって、「世代」という集団ではありません。○○世代という呼び方でひとくくりにししないで、それぞれの個性をもっと認めてくれる世の中になっていきますように。

(編集長・大学生・平尾夏生)

●今回の企画は自分の子どもと同年代がターゲット。そうは言っても人それぞれ、育った環境って個性に反映するんだなと感じました。紙面に載らない部分でもお話を聞かせてくれた皆さんに、ありがとう！そして、良き人生を！

(市川美弥子)

●女子大生の「自信に満ちあふれたみずみずしさ」と、社会人となった女の子たちの「悩み迷いながらも進んでいく強さ」。取材を通し、女子は強いなと実感しました。同時に“自分にもそんな時代があったなー”と遠い目の私(笑)。いやいや、いくつになっても人生これから。輝くぞー。

(鈴木亜希)

●同世代の女子の頼もしさを知った取材・編集でした。頼もしい女子の皆さんに、男子は頼ってもいいですね。無理して「黙って俺についてこい！」なんて言わなくても、お互い持ちつ持たれつ生きていけたらいいですね。家事に育児に、22歳男子も働きます！

(大学生・梶山雄紀)

●最近のファッションでよく使われる「抜け感」という言葉。完璧コーディネートではなく、一部をセオリーからはずして自分らしく装うことを指します。22歳女子たちの生き方や考え方にこの「抜け感」が重まりました。時代の閉塞感をすりとかわして格好よく。彼女たちの未来が楽しみです。

(アドバイザー・増淵礼子)

●カラフルな個性を持った22歳の彼女たち。これから社会に出ていく時に紺や黒のリクルートスーツ色を身にまとっても、本来の色を失わずきらきらと泳いでいってほしいと思いました。老いても若きも互いの色を奪わず、自らの色も生かしてゆく社会を創っていきたくです。

(デザイナー・利根川初美)



ねっとわあく

2012/10/10 Vol.61

発行日/平成24年10月10日

〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1

企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ

TEL/054-250-8147 FAX/054-251-5085

編集長/平尾夏生

編集員/市川美弥子、鈴木亜希、梶山雄紀

アドバイザー・増淵礼子

デザイナー・利根川初美

「ねっとわあく」は年2回(3月、10月)発行します。県民生活センター、県内の男女共同参画センター、市町役場、公民館、公立図書館、文化会館などで配布しています。会社やご友人にもぜひ回覧してください。